

タイトル	北海道の建設産業の現状と課題( ) : 釧路における建設労働者調査から
著者	川村, 雅則; KAWAMURA, Masanori
引用	季刊北海学園大学経済論集, 62(2): 103-121
発行日	2014-09-30

## 《研究ノート》

## 北海道の建設産業の現状と課題（II）

— 釧路における建設労働者調査から

川 村 雅 則

## I. はじめに

本稿は、釧路で2014年春に行った、建設業で働く労働者（中心は季節雇用）の、主として賃金の調査結果をまとめたものである。本調査では、建設労働者の実態を明らかにし、なおかつ、公契約条例<sup>1</sup>が釧路でも必要かどうかの検討を目的とした。

技能労働者の確保が困難になっているなかで、政府は公共工事設計労務単価を2013年から大きく引き上げた。

図表I-1は北海道の主要12職種の同単価をまとめたものである。12年から13年にかけてだけでも、どの職種でも1000円以上単価が上がり、12年から14年にかけてでは、最大で4000円も単価が上がっている。

ただ問題は、設計労務単価のこうした引き上げが労働者の賃金増に結びついているのか、ということである。公契約条例制定の議論でも、この点が問われている。

本稿では、NPO建設政策研究所北海道センター（以下、センター）が建設産業の労働組合と共同で釧路で行った2つの調査結果を

報告する。1つは、全国建設労働組合総連合（略称、全建総連）釧路建設ユニオンと取り組んだ、組合員の賃金調査の結果で、もう1つは、全日本建設交運一般労働組合（略称、建交労）釧路支部と取り組んだ、季節労働者を対象とした、仕事と生活に関する簡易なアンケート調査結果である。

さて、本調査を行った釧路市では、炭鉱の閉山（その後、事業を縮小して別会社が継続）、漁業など一次産業や紙パルプなど基幹産業の不振で、かつては20万人を超えた人口も、減少を続けている。2005年には阿寒町、音別町との合併を経たものの、2010年時点で18万人台にまで人口は減っている。同市は、地域経済の急速な悪化で生活保護率が全国でも高い自治体のひとつとなった。

ところで、本調査の主な対象は季節労働者である。積雪寒冷地である北海道では、建設産業を中心に、冬に失業を余儀なくされる季節雇用問題の解決がかねてから政治的な課題にもなってきた。

道内の建設就業者全体のピークが1990年代後半である（図表I-2）のに対して、季節労働者（ここでは、短期雇用特例被保険者のうち、特例一時金の受給資格決定者）のピークは1980年であり、いまやその数は、北海道全体では約30万人から8万人、釧路管内では1万5千人から4千人と、それぞれピーク時の4分の1にまで減少している（図表I-3）とはいえ、こうした人数の減少は、問

<sup>1</sup> 筆者は、公契約条例の制定を目指す札幌市で、労働組合や弁護士らと条例制定運動に取り組んできた。条例案は2013年第3回定例会市議会で否決されたが、その間の経験などは、NPO建設政策研究所の発行する『建設政策』で発表してきた（本稿の一部は川村（2014b）に発表）。

題の解決を意味しているわけではない（詳細は、北海道経済部（2011）を参照）。現場の実態を明らかにする必要がある。

最後に、釧路管内の建設労働者数の推移を代替するものとして、釧路公共職業安定所から提供された、一般雇用被保険者数（月平

図表 I-1 北海道における主要 12 職種の公共工事設計労務単価

単位：円

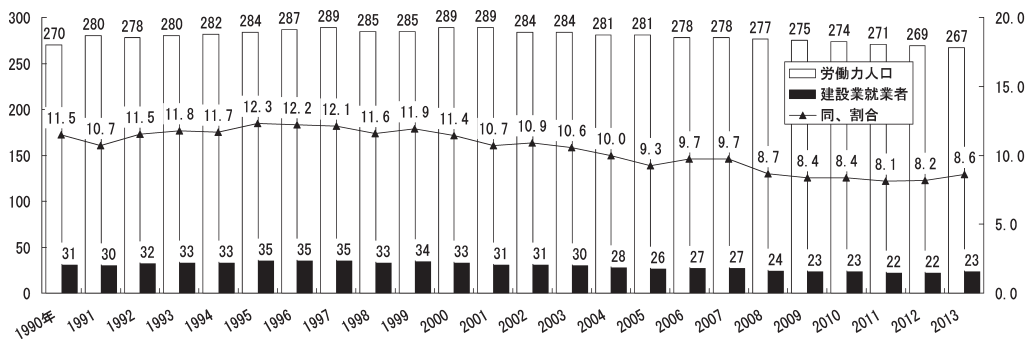
	特 作 業 員	普 通 作 業 員	軽作業員	と び 工	鉄 筋 工	運 転 手 ( 特 殊 )	運 転 手 ( 一 般 )	型 わ く 工	大 工	左 官	交 通 誘 導 員 A	交 通 誘 導 員 B
2014 年	16,400 (23,100)	13,500 (19,000)	11,300 (15,900)	17,100 (24,000)	17,400 (24,500)	16,300 (22,900)	13,700 (19,300)	16,800 (23,600)	18,000 (25,300)	18,000 (25,300)	9,900 (13,900)	8,900 (12,500)
2013 年	15,400 (21,700)	12,700 (17,900)	10,600 (14,900)	15,700 (22,100)	16,000 (22,500)	15,300 (21,500)	12,800 (18,000)	15,400 (21,700)	16,500 (23,200)	16,500 (23,200)	9,100 (12,800)	8,300 (11,700)
2012 年	13,400	11,000	9,200	13,400	13,600	13,300	11,100	13,100	14,000	14,000	7,900	7,100

注：2013 年，2014 年の下段（括弧内）の金額は，建設労働者の雇用に伴って必要となる，法定福利費の事業主負担額，労務管理費，安全管理費，宿舎費等を，公共工事設計労務単価（上段の数値）に加算した金額。

出所：国土交通省「公共工事設計労務単価」より作成。

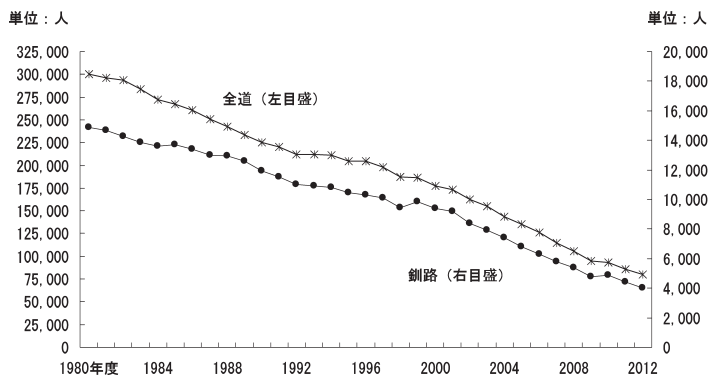
単位：万人

単位：%



図表 I-2 北海道における労働力人口及び建設業就業者数の推移

出所：総務省「労働力調査」より作成。



図表 I-3 全道及び釧路管内における季節労働者数の推移

出所：北海道労働局「職業安定課業務統計」（北海道労働局『季節労働者の推移と現況』）より作成。

図表 I-4 釧路管内における全業種及び建設業の一般雇用及び短期雇用特例被保険者数（月平均）の推移  
単位：人

年度	全業種		建設業	
	一般	短期	一般	短期
1996	58,585	6,246	5,790	4,126
1997	58,072	6,083	5,781	4,014
1998	56,755	6,031	5,572	3,930
1999	55,916	5,927	5,602	3,934
2000	55,218	5,762	5,401	3,823
2001	56,026	5,457	5,194	3,640
2002	55,031	5,128	4,968	3,362
2003	54,105	4,789	4,758	3,090
2004	54,081	4,611	4,729	3,005
2005	54,120	4,096	4,703	2,598
2006	53,551	3,968	4,613	2,481
2007	53,804	3,714	4,639	2,292
2008	54,167	3,283	4,444	1,935
2009	53,548	3,258	4,247	1,998
2010	54,021	3,096	4,110	1,846
2011	54,635	2,886	4,108	1,706
2012	53,870	2,727	4,147	1,626
2013	55,247	2,676	4,264	1,625
2013/1996	94.3	42.8	73.6	39.4

注：釧路管内における全業種及び建設業における一般雇用被保険者数及び短期雇用特例被保険者数（いずれも月平均）の推移。

出所：釧路公共職業安定所から提供された雇用保険データから作成。

均）のデータをまとめておく（図表 I-4。参考値として短期雇用特例被保険者数も掲載）。

1996 年度と 2013 年度を比較すると、「全業種・一般」では 6 ポイントの減少にとどまるのに対して、「建設業・一般」では 4 分の 1 も減少している。

## II. 全建総連釧路建設ユニオン調査の概要と、その結果

### 1. 調査の概要

雇用保険の手続きに関わって、組合員は、本人の賃金と、雇用している従業員がいる場合にはその賃金に関する資料をユニオンに提出する（従業員は必ずしも組合員とは限らない）。そこには、毎日の就労状況や賃金支払い状況などが月ごとにまとめられている。こ

の資料（以下、「賃金表」という）を分析した。原則として、2013 年度内の就労状況である（一部に、13 年 1～3 月にも働いている者がいた）。

調査時点（2014 年 3 月）でユニオンに提出されていた 66 人分の「賃金表」を分析の対象とした（ユニオンの実際の組合員数は約 450 人である）。

対象者 66 人（事業主を含む）が所属する事業者の数は合計 21 で、そのうち 10 人以上が働く事業者が 2 つある。

### 2. 対象者の属性と職種

対象者は、1 人を除く全員が男性である。

図表 II-1 のとおり、年齢は、30 歳代が最も多く、60 歳以上（70 歳以上が 2 人）がそれに続く。

職種については（記載されていた一部は、設計労務単価表の職種に読み替えた）、図表 II-2 のとおり、普通作業員が最も多く 22 人である。それに次いで、鉄筋工（19 人）、大工（12 人）の順である。

### 3. 就労期間

就労が開始されていた月（以下、「就労開始月」）から、就労が終わった月（「就労終了月」）までの間を「就労期間」とみなす。

補足すると、(1)対象者のうち 2 人の「就労期間」は 12 ヶ月を超えている。(2)対象者のうち 1 人は、就労期間内に 1 ヶ月の「空白期

図表 II-1 対象者の年齢

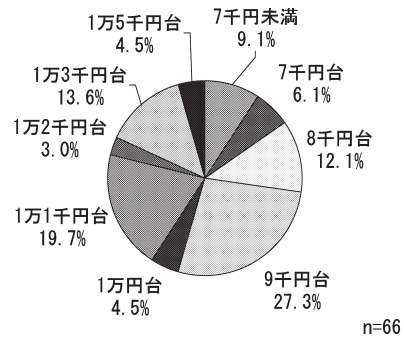
	単位：人，%	
	66	100.0
10 歳代	4	6.1
20 歳代	8	12.1
30 歳代	21	31.8
40 歳代	8	12.1
50 歳代	10	15.2
60 歳以上	15	22.7

注：「60 歳以上」のうち、2 人が 70 歳代で、残りは 60 歳代。

図表II-2 対象者の職種

単位：人，%

記載職種名	人数	割合
普通作業員	22	33.3
作業員	12	18.2
土工，大工	3	4.5
土工，とび	2	3.0
土木職	4	6.1
土木工事	1	1.5
とび工	5	7.6
ブロック工	1	1.5
鉄筋工	19	28.8
塗装工	5	7.6
型枠工	2	3.0
大工	12	18.2
大工	11	16.7
建築大工	1	1.5
合計	66	100.0



図表II-4 賃金日額

注：「記載職種名」とは、「賃金表」に記載されていた職種名。

図表II-3 職種別に見た就労期間

単位：ヶ月

	人数(人)	平均値	標準偏差	最小値	最大値
普通作業員	22	9.4	1.5	6	11
とび工	5	8.8	1.6	6	10
ブロック工	1	8.0		8	8
鉄筋工	19	8.4	2.4	7	14
塗装工	5	9.6	1.3	8	11
型枠工	2	11.0	0.0	11	11
大工	12	9.0	1.6	7	11
合計	66	9.0	1.8	6	14

間」が生じていたが，その他は全員が「空白」なしで働いていた。

さて集計の結果は（図表II-3），全体の「就労期間」の平均値は9.0ヶ月で，最少は6ヶ月，最多は14ヶ月である。

#### 4. 賃金

第一に，「賃金表」に記載されていた賃金日額を分析した<sup>2</sup>。

1千円刻みでみた全体の結果は（図表II-4），「9千円台」が全体の4分の1強を占める。平均値は9,967円で，1万円に満たない回答が全体の半数強を占めている。

ところで，公共事業で働いた者には賃金

（日額）はいくら支給されただろうか。

ここではまず，対象者が釧路市発注の公共工事で働いたかどうかを，「賃金表」に記載されていた情報（作業現場・作業名）にもとづいて，ユニオン役員に判断してもらった<sup>3</sup>。

結果，公共工事で働いたことが明らかな者が10人いた。しかしその彼らを含む全員が，公共工事設計労務単価を下回る水準でしか賃

<sup>2</sup> 就労期間内に昇給しているケースは，昇給後の金額を分析対象とした。

<sup>3</sup> 但し，事業者によっては，作業現場・作業名が記載されていなかったり記載内容が不確かなものもあったので，ここでの結果はあくまでも，参考にとどめる。

図表II-5 職種別に応じた賃金日額

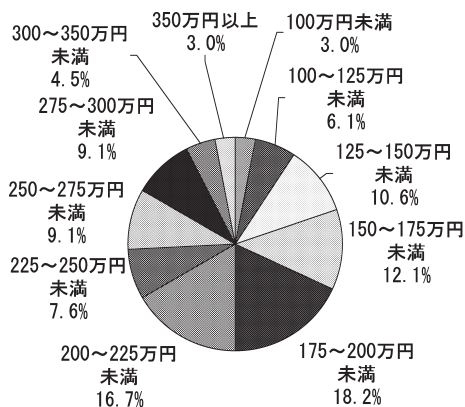
単位：円

	人数	平均値	最小値	最大値	対象者個々の回答	うち公共工事従事者		公共工事設計労務単価
						人数	賃金日額	
普通作業員	22人	9,591	8,000	11,000	8,000(3) 8,500 9,000(6) 9,500(4) 10,000 10,500 11,000(6)	3人	8,500 9,000 11,000	12,700
とび工	5人	9,000	6,500	13,000	6,500 7,000 8,500 10,000 13,000	0人		15,700
ブロック工	1人	13,000	13,000	13,000	13,000	1人	13,000	21,800
鉄筋工	19人	8,489	5,500	12,000	5,500 6,000(2) 6,500(2) 7,000(2) 7,800 8,000(2) 9,000(2) 9,500(2) 11,000(4) 12,000	0人		16,000
塗装工	5人	9,600	8,000	13,000	8,000 9,000(3) 13,000	0人		16,000
型枠工	2人	10,500	9,000	12,000	9,000 12,000	0人		15,400
大工	12人	13,208	11,500	15,000	11,500(3) 13,000(4) 13,500(2) 15,000(3)	6人	11,500(3) 13,000 13,500(2)	16,500
合計	66人	9,967	5,500	15,000		10人		

注1：公共工事従事者とは、釧路市発注の公共工事で働いたと思われる者。

注2：公共工事設計労務単価は2013年値。

注3：「個々の回答」欄の金額の後に記載されている括弧内の数値は人数で、表記のない場合は1人を意味している。



n=66

図表II-6 年間賃金額（手取り）

金が支給されていなかった（図表II-5）。

第二に、就労期間内の賃金額（保険料などが控除された金額）の全てを足し合わせたものを年間の賃金総収入とみなし、その結果をみってみる（前述のとおり、対象者のうち2人は、就労期間が12ヶ月を超えている）。

まず図表II-6のとおり、200万円に満たな

図表II-7 職種別に応じた年間賃金額（手取り）

単位：万円

	人数(人)	平均値	標準偏差	最小値	最大値
普通作業員	22	210.5	62.8	109.9	410.0
とび工	5	163.6	66.9	73.8	236.3
ブロック工	1	221.1		221.1	221.1
鉄筋工	19	167.8	43.7	91.9	256.2
塗装工	5	197.3	57.2	145.0	293.8
型枠工	2	228.9	58.8	187.3	270.5
大工	12	282.6	45.7	200.3	365.8
合計	66	207.5	66.1	73.8	410.0

い者が半数を占め、300万円まで範囲を広げると全体の9割強がそこにおさまる。最大値は410万円、平均値は207.5万円である。

雇用保険に加入していない期間の就労収入（アルバイト的な就労収入など）や、失業時に支給される特例一時金はここには含まれないとはいえ、非常に低い水準といえよう。

次にこれを職種別にみたが（図表II-7）、金額が最も高い大工でも、平均値は282.6万円にとどまる。

## 5. 社会保険の加入状況

建設労働者には、労使折半の社会保険（健康保険、厚生年金）に未加入の者が少なくない<sup>4</sup>。彼らは、少ない収入の中から保険料を負担し、国民健康保険（国保）や国民年金に個人で加入しなければならない。

本調査では、健康保険料と年金保険料の控除の状況が「賃金表」に記載されていたので、それをまとめてみた（図表II-8）。

結果は、「どちらも控除なし」が51人と全体の8割弱を占める。

但し、全建総連の組合員は、医療保険に関しては、（負担の重い市町村国保ではなく）「建設国保」に加入している者がほとんどである。よって、上記の「どちらも控除なし」の者も、ほとんどは建設国保に加入していると思われる。

とはいえ、公的年金保険に関しては、国民年金に加入しなければならない。先にみた収入水準の中からの保険料負担は小さくないだろう（もちろん、保険料の減免を受けたり無年金を「選択」することもできるが）。

図表II-8 職種別にみた社会保険料の控除の有無

単位：人

	人数	どちらも控除なし	控除あり		
			健康保険料も年金保険料も	健康保険料のみ	年金保険料のみ
普通作業員	22	19	0	3	0
とび工	5	4	0	1	0
ブロック工	1	0	0	0	1
鉄筋工	19	12	7	0	0
塗装工	5	5	0	0	0
型枠工	2	2	0	0	0
大工	12	9	1	2	0
合計	66	51	8	6	1
割合 (%)	100.0	77.3	12.1	9.1	1.5

<sup>4</sup> 例えば全国の調査結果によれば、雇用保険、健康保険、厚生年金の順にみた加入割合は、企業単位で96%、92%、91%、労働者個人単位で76%、66%、64%である。以上は国土交通省「公共事業労務費調査（2013年10月調査）における保険加入状況調査」の結果（2014年6月公表）より。

## III. 建交労釧路支部調査の概要と、その結果

### 1. 調査の概要

季節労働者を対象にしたアンケート調査をセンターではこれまでも実施してきた<sup>5</sup>。

だが、季節労働者を対象に開催されていた冬期技能講習制度がなくなってからは、彼らへのアプローチは年々困難になっている。今回は、建交労釧路支部で何度か整理・使用されてきた、技能講習当時の古い名簿を手がかりに、調査を始めた（名簿が最後に使用されたのは2年前だという）。

まず、2014年3月時点で65歳以下の者に限定して調査票を送った。その数は1006部（人）である。そのうち43部が宛先不明で戻ってきた（残り963人）。

次に、回収率アップと聞き取りも兼ねて、電話がけ作業をした。人手が足りなかったこともあり、電話がけができたのは、963人全員ではなく、釧路市内在住者を中心とする588人（不在だった者を含む）である。

そのうち、死亡が10人、本人転出が21人、現役を引退あるいは建設以外の仕事に転職した者が83人確認された。さらに92人は名簿に記載されていた電話が現在使われていなかった（携帯電話への切り替えか）。

以上の作業を経て、100人から回答を得た（いずれも有効回答）。現役で働いているのがそのうち92人で、さらに、建設業で働いているのはそのうち81人だった。本稿ではこの81人の結果を取り上げる。

なお、調査票の内容は、仕事と生活に関する設問で構成されている（資料3）。

但し、以下では、本稿の問題意識にそって、賃金の結果を中心に紹介する。残りの調査結果は、p115以降の集計一覧表（資料2）で

<sup>5</sup> 最新の調査結果としては、北海道経済部からの委託事業である、北海道経済部（2011）を参照。

確認されたい。

また、各設問では、不明は除いて計算しているの、結果をみる際は注意されたい。

## 2. 回答者の属性と就業の状況

回答者 81 人中、男性が 75 人、女性が 6 人である。

年齢は (図表 III-1)、60 歳代が全体の半数弱 (48.8%) を占める。50 歳代とあわせるとおよそ 9 割である。

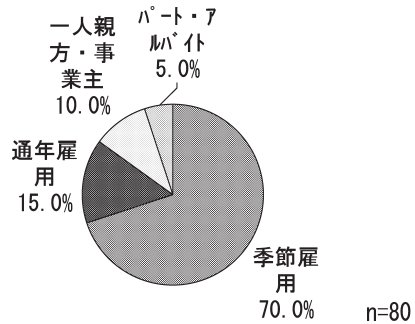
勤めている会社は「元請け」が半数 (51.3%) で、仕事の種類は、「公共工事が中心」36.3%、「民間工事が中心」31.3%、「公共と民間が同じくらい」32.5%とわかれた。

就業形態は (図表 III-2)、56 人が「季節雇用」で最多である<sup>6</sup>。現在の職種で多いのは (図表 III-3)、「普通作業員」26 人 (「土工」「土木作業員」のほか、「土工、オペレーター」4 人を読み替え)、「大工」20 人である。その他は 1 桁の人数である。

なお、経験年数は平均で 28.5 年と長い。

図表 III-1 回答者の年齢

	単位：人，%	
	80	100.0
30 歳代	3	3.8
40 歳代	5	6.3
50 歳代	33	41.3
60 歳代	39	48.8



図表 III-2 就業形態

図表 III-3 現在の職種及び同職種での経験年数

		単位：人，%	
		77	100.0
現在の職種	普通作業員	26	33.8
	大工	20	26.0
	左官	4	5.2
	塗装工	4	5.2
	舗装工	4	5.2
	型枠工	3	3.9
	造園工	3	3.9
	その他職種	13	16.9
			79
現在の職種での経験年数	10 年未満	8	10.1
	10～20 年未満	16	20.3
	20～30 年未満	16	20.3
	30～40 年未満	14	17.7
	40 年以上	25	31.6
平均値 (単位：年)		28.5	
標準偏差 (単位：年)		14.1	

## 3. 賃金

### 1) 仕事量と賃金水準の変化

まず例年に比べての昨年の仕事量は (図表 III-4)、最多は「変わらなかった」(46.8%) であるが、一方で、公共工事で働いた者を中心に「例年より多かった」もみられ、その値は全体でも 3 分の 1 を占める (34.2%)。

しかしながら、一昨年比でみた昨年の賃金額は、「変わらない」が 86.1% と圧倒的に多く、「上がった」は 6.3% にとどまる (「下がった」も 7.6%)。

では、その金額を少し詳しくみてみよう。

<sup>6</sup> 「通年雇用」「一人親方・事業主」という回答者でも、雇用保険は「季節で加入」という回答があった。雇用保険上の区分ではなく、仕事の量 (例えば、冬期の間も仕事がつながったので「通年」) や現場でどう扱われているか (例えば、雇用されているが、請負で働いているので「一人親方」) にもとづき回答されたケースもあると推測される。なお、「年間雇用ではあっても仕事には波がある。発注がなければ待機状態。かといってバイトは出来ない。いつ仕事が入ってくるか分からない [の] (自由記述)」という回答のとおり、「通年雇用」であっても、仕事の安定度については、別途検証が必要なのである。

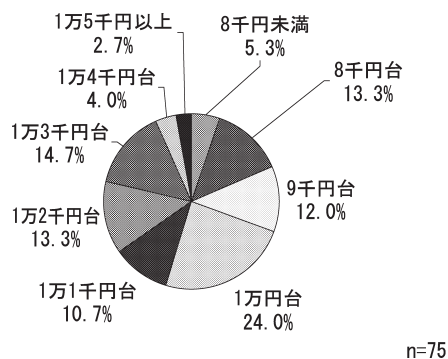


図表III-4 昨年の仕事量・日数及び賃金額の増減

単位：人，%

	全体		公共工事が中心		民間工事が中心		公共と民間が同じくらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%
	79	100.0	28	100.0	24	100.0	26	100.0
昨年の仕事量・日数の増減	例年より多かった	27 34.2	11 39.3	6 25.0	10 38.5			
	例年より少なかった	15 19.0	4 14.3	5 20.8	6 23.1			
	変わらなかった	37 46.8	13 46.4	13 54.2	10 38.5			
	79	100.0	29	100.0	23	100.0	26	100.0
昨年の賃金額の増減(一昨年度比)	上がった	5 6.3	2 6.9	1 4.3	2 7.7			
	下がった	6 7.6	1 3.4	4 17.4	1 3.8			
	変わらない	68 86.1	26 89.7	18 78.3	23 88.5			

まず，一人親方等を含む75人から回答のあった賃金日額(昨年実績)を1千円刻みでまとめたのが図表III-5である。「1万円台」



図表III-5 賃金日額

に回答の約4分の1が集中している。また，全体の3割が1万円に満たない。なお，図表III-6に，職種別の結果をまとめておく。

### 2) 公共工事現場における賃金水準

ところで，釧路市の発注する工事で昨年働いたという回答が30人からあった。そのうち，職種と賃金日額の両方が記載されていたのが26人だ。彼らの賃金日額は，設計労務単価に達しているだろうか。それをまとめたのが図表III-7である。

結果は，同単価を超えているのは，「普通作業員」の2人だけである。

ここで参考までに，公共工事が中心の会社で働く3人(a~c)からの電話聞き取りの結果も紹介する(詳細はp114の資料1を参

図表III-6 職種別にみた賃金日額

単位：人，%

	普通作業員	大工	左官	塗装工	舗装工	型枠工	造園工
	23 100.0	20 100.0	4 100.0	4 100.0	4 100.0	3 100.0	3 100.0
8000円未満							
8000円台	8 34.8					2 66.7	2 66.7
9000円台	2 8.7	1 5.0		1 25.0		1 33.3	
10000円台	6 26.1	1 5.0			3 75.0		1 33.3
11000円台	5 21.7		1 25.0	2 50.0			
12000円台	1 4.3	8 40.0		1 25.0			
13000円台	1 4.3	8 40.0	1 25.0		1 25.0		
14000円台		1 5.0	2 50.0				
15000円以上		1 5.0					
平均値 (単位：円)	9,859	12,400	13,000	10,850	11,000	7,667	7,800
標準偏差 (単位：円)	1,448	1,273	1,414	1,290	1,354	1,756	1,929

図表Ⅲ-7 職種別にみた賃金日額（釧路市発注の公共工事従事者）

単位：円

	普通作業員 10人	大工 3人	左官 2人	塗装工 3人	舗装工 3人	鉄筋工 2人	配管工 1人	とび工 1人	型枠工 1人
公共工事 設計労務 単価	12,700	16,500	16,500	16,000	15,400	16,000	16,200	15,700	15,400
同単価 未満	8,000 9,000 10,000(2) 10,100 11,000 11,500(2)	12,000 13,000(2)	11,000 14,000	9,000 11,200(2)	10,000 10,500(2)	10,000(2)	10,000	8,000	7,500
同単価 以上	13,000 15,000								

注1：公共工事設計労務単価は2013年値。

注2：金額の後に記載されている括弧内の数値は人数で、表記のない場合は1人を意味している。

照)。3人はいずれも60歳代で、aは2次下請けで、b、cは元請けで働いている。

賃金は上がっていないというaは、労使折半の社会保険にも未加入で、国保は滞納、国民年金は未加入など生活困窮がうかがえる。

bは、今年は冬も仕事があったので地方に働きに行かずにすんだが、賃金は日額で数百円上がった程度であるという。

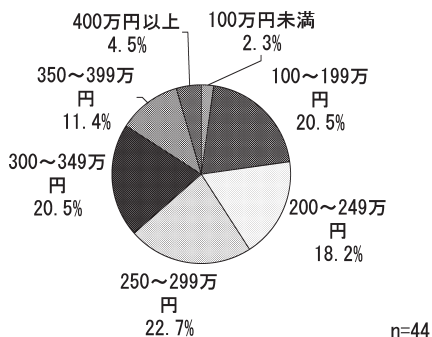
cの会社は他社よりも条件はよいのだが、賃金は、「若いのは日額で200～300円上がったと話しているけれども」c自身は上がっていないという（繰り返しになるが、2013年は、前年比で全ての職種で公共工事設計労務単価は1000円以上引き上げられている）。

### 3) 年間総収入

さて、本調査では、「昨年の年間総収入（ボーナスや手当等を含む）も尋ねた。

結果は、まず、無回答が多かった。次に、回答された収入水準では（図表Ⅲ-8）、200万円未満が5分の1強、300万円未満が6割強を占めた。

全体として水準は低いものの、「全建総連調査」結果と比べると高い。両調査では、そもそも回答者の年齢構成も職種構成も異なるが、加えて、本調査では、税込みか手取りかを明記しなかったこと（「全建総連調査」では手取り）や、雇用保険が切れている間の



図表Ⅲ-8 昨年の年間総収入

図表Ⅲ-9 職種別にみた、昨年の年間総収入

単位：万円

	人数 (人)	平均値	標準偏差	最小値	最大値
普通作業員	17	208.9	69.1	95	330
大工	12	304.2	45.8	230	350
塗装工	3	301.3	48.0	260	354
舗装工	3	315.0	74.7	230	370
左官	2	255.0	21.2	240	270
型枠工	1	180.0		180	180
造園工	1	180.0		180	180
その他職種	5	345.6	157.1	150	550
合計	44	264.7	89.6	95	550

（冬期間の）就労収入及び特例一時金が含まれている可能性がある。

なお、職種別にみた結果を図表Ⅲ-9にまとめた。

#### 4. 社会保険の加入状況など

まず医療保険は(図表III-10)、最多が「年間を通じて市町村の国民健康保険」(38.0%)である。夏場だけでも社会保険に加入しているのは、合計しても34.2%(27人)にとどまる。ほかに多いのは「年間を通じて建設国保などの組合国保」(22.8%)である。

なお、「通年雇用」と回答した者でも、年間を通じて社会保険に加入していると回答したのは1人だけだった(表中の「その他」)。

次に年金保険は(図表III-11)、「まだかけている」者が多数だが、「入っていない」が全体の2割(「すでに受給中」を分母から除くと、約4分の1)を占める。また、「まだかけている」者の中では、国民年金が半分を占めている<sup>7</sup>。国民年金の給付水準を考える

図表III-10 医療保険の加入状況

単位：人，%

	79	100.0
年間を通じて市町村の国民健康保険	30	38.0
年間を通じて建設国保などの組合国保	18	22.8
夏場は社会保険で冬は任意継続	12	15.2
夏場は社会保険で冬は国民健康保険	10	12.7
夏場は社会保険で冬は家族の保険の扶養	3	3.8
夏場は社会保険で冬は無保険	2	2.5
年間を通じて家族の保険の扶養	2	2.5
わからない	1	1.3
その他(年間を通じて社会保険)	1	1.3

図表III-11 公的年金の加入状況

単位：人，%

	79	100.0
公的年金の加入状況		
すでに受給中	13	16.5
まだかけている	50	63.3
入っていない	16	20.3
	50	100.0
公的年金の種類		
年間を通じて厚生年金	4	8.0
夏場だけ厚生年金で冬場は国民年金	12	24.0
夏場だけ厚生年金で冬場は加入せず	7	14.0
年間を通じて国民年金	25	50.0
年間を通じて家族の保険の扶養	2	4.0

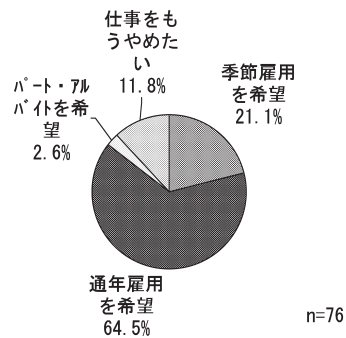
注：「公的年金の種類」の回答は、年金を「まだかけている」者に限定。

と、現役引退後の生活が懸念される(無年金者はなおのことである)。

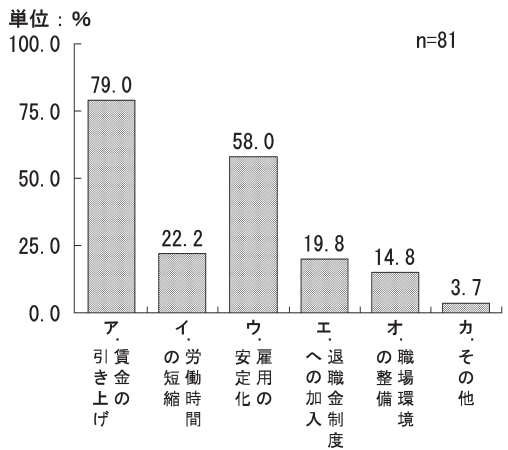
#### 5. 就労や労働条件に関する希望など

さて、回答者の今後の就労希望はどうか(図表III-12)。「通年雇用」で働きたいという者が全体の3分の2弱を占めている。「季節雇用」を希望する者は2割だ。

また、図表III-13のとおり、仕事や賃金・労働条件に関する要望(3つまで可)では、



図表III-12 今後の就労及び就労形態の希望



図表III-13 仕事や賃金・労働条件に関する要望(3つまで可)

<sup>7</sup> センターによる過去の調査では、「加入者」のうち保険料の減免措置を受けている者や滞納者は少なくなかった。北海道経済部(2011)では、その値は合計で3割強に及んだ。

「ア．賃金の引き上げ」が79.0%、「ウ．雇用の安定化」が58.0%が多い。

#### Ⅳ．まとめに代えて

本稿では、釧路で行った、建設業で働く労働者（中心は季節雇用）の調査結果をみてきた。調査では、公契約条例の必要性の検討も目的にした。

公契約条例が必要か否かは、そもそも、自治体が発注した公共事業や委託事業で働く労働者の賃金等の実態から出発しなければなるまい。そうした事実の把握がないままの議論は、建設的ではなからう。

今回の小規模調査では、まず、建設労働者の賃金水準の低さがあらためて浮き彫りになったほか、国による公共工事設計労務単価の引き上げが現場の賃金増には必ずしも結び

ついていないことが確認された。

地方都市では、公契約条例の制定もさることながら、地域経済あるいは地域の建設産業全体を視野に入れた政策論議や取り組みが欠かせない。現場の把握は、その前提であり、発注者である釧路市に期待される役割である。

#### 参考文献

- 川村雅則（2009）「北海道の建設産業の現状と課題（Ⅰ）」『北海学園大学経済論集』第57巻第1号  
———（2014a）「札幌市公契約条例案の否決をうけて、関係者の課題をあらためて考える」『建設政策』153号  
———（2014b）「労務単価引き上げで賃金は改善されているのか——釧路でも建設労働者の実態調査に着手」『建設政策』156号
- 北海道経済部（2011）『2010年度 季節労働者実態調査報告書』北海道経済部

## 資料 1 公共事業で働く労働者 3 人からの聞き取り結果（「建交労調査」より）

a. 土工，オペレーター。前の会社が倒産して，現在の会社で働き始めて 10 年になる。

公共工事がほとんどだが，賃金は上がらない。大きな会社であれば別なのかもしれないが，いくら国が賃金を上げるよう言っても何も変わらない。〔市の発注金額は上がっていない？〕現場の自分たちにはわからないけれども，上がっているのだとしたらそのお金はどこへ行っているのか。元請がハネているのか。

今年は仕事がまだ始まっていない。「来てくれ」と会社に言われているので大丈夫だと思うが，はっきりしていないので不安。GW 後には仕事が入るように聞いているが。

国保は滞納，年金はかけていない，とてもかけられる余裕はない。将来的にどうするのか考えたら頭が真っ白。〔公共工事現場では社会保険加入がいられているが？〕大きな会社はどうかかわからないけれども，うちは加入させてもらっていない。元請からの指導などもない。社会保険は国で天引きするような仕組みを作って欲しい。

パートだけれども妻が稼いでくれているので，少しは生活の足しになっている。子どもも同居しているが体調が悪く定職につけていない。今後のことが心配。

注：〔 〕内は筆者の質問。

b. 型枠，左官の資格をもっているが今は土木職。経験は 14 年ほどである。

賃金は変わらない。ただ，今年に入って日額で数百円があがった。例年は，冬に仕事なくなるので地方に行くのだけれども，今年に限っては冬も仕事があるからということで，3 月まで働くことができた。

ただそれでも公共工事が中心なので，3 月で仕事が切れてしまい，今年も 1 ヶ月半ぐらいぶらぶらしなければならぬのがせつない。民間の仕事でもよいので少しはやってくれればいいのだけれども。

結局，会社も，従業員のことを考えていないのだと思う。管理者がずさんで，機械などを私物化している。

仕事が始めれば，体の調子が悪くても——実際，症状も出ているけれども，病院にかかることができない。将来のことが心配。

c. 型枠大工。季節雇用だけれども，今年は橋の工事など，冬にも仕事があったので，雇用が切れずに働いている。

賃金は変わらない。若いのは日額で 200～300 円上がったと話しているけれども，自分は年だから（60 歳代前半）仕方がないのかなと思っている。

年だから現場に入れてもらえない，ということはない。元請けの仕事が中心。社会保険にも入れてもらっているし，建退共にも入っている。うちはよその会社に比べてよいほうかなと思っている。

資料2 「建交労調査」結果一覧表

単位：人，%

		全体		季節雇用		通年雇用		一人親方・事業主		パート・アルバイト	
		81	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
性別	男性	75	92.6	52	92.9	11	91.7	8	100.0	3	75.0
	女性	6	7.4	4	7.1	1	8.3			1	25.0
		80	100.0	55	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
年齢	30歳代	3	3.8	2	3.6	1	8.3				
	40歳代	5	6.3	4	7.3			1	12.5		
	50歳代	33	41.3	20	36.4	7	58.3	4	50.0	1	25.0
	60歳代	39	48.8	29	52.7	4	33.3	3	37.5	3	75.0
		80	100.0								
雇用形態等	季節雇用	56	70.0								
	通年雇用	12	15.0								
	一人親方・事業主	8	10.0								
	パート・アルバイト	4	5.0								
		77	100.0	54	100.0	10	100.0	8	100.0	4	100.0
職種	普通作業員	26	33.8	24	44.4	2	20.0				
	大工	20	26.0	10	18.5	4	40.0	6	75.0		
	左官	4	5.2	4	7.4						
	塗装工	4	5.2	3	5.6	1	10.0				
	舗装工	4	5.2	4	7.4						
	型枠工	3	3.9	2	3.7	1	10.0				
	造園工	3	3.9	1	1.9	1	10.0			1	25.0
	その他職種	13	16.9	6	11.1	1	10.0	2	25.0	3	75.0
			79	100.0	54	100.0	12	100.0	8	100.0	4
現在の職種での経験年数	10年未満	8	10.1	6	11.1					2	50.0
	10～20年未満	16	20.3	11	20.4	2	16.7	2	25.0	1	25.0
	20～30年未満	16	20.3	10	18.5	5	41.7				
	30～40年未満	14	17.7	11	20.4	1	8.3	2	25.0		
	40年以上	25	31.6	16	29.6	4	33.3	4	50.0	1	25.0
	平均値 (単位：年)		28.5		28.3		29.3		34.3		18.0
標準偏差 (単位：年)		14.1		13.9		12.3		14.8		20.5	
		73	100.0	56	100.0	12	100.0	4	100.0	72	100.0
勤め先の従業員の規模	1～4人	19	26.0	15	26.8	3	25.0	1	25.0	19	26.4
	5～15人	30	41.1	22	39.3	4	33.3	3	75.0	29	40.3
	16～29人	11	15.1	8	14.3	3	25.0			11	15.3
	30人以上	13	17.8	11	19.6	2	16.7			13	18.1
		80	100.0	55	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
仕事の種類 (公共か民間か)	公共工事が中心	29	36.3	24	43.6	4	33.3			1	25.0
	民間工事が中心	25	31.3	13	23.6	2	16.7	8	100.0	2	50.0
	公共と民間が同じくらい	26	32.5	18	32.7	6	50.0			1	25.0
		80	100.0	56	100.0	12	100.0	7	100.0	4	100.0
元請/下請仕事	元請け	41	51.3	27	48.2	8	66.7	4	57.1	2	50.0
	元請けか1次	5	6.3	5	8.9						
	1次下請け	17	21.3	12	21.4	3	25.0	1	14.3		
	2次下請け	13	16.3	9	16.1	1	8.3	1	14.3	2	50.0
	2次か3次以下	2	2.5	2	3.6						
3次以下の下請け	2	2.5	1	1.8			1	14.3			

単位：人，%

		建設業全体		季節雇用		通年雇用		一人親方・事業主		パート・アルバイト		
		60	100.0	55	100.0					4	100.0	
雇入れ通知書	もらった	27	45.0	27	49.1							
	もらっていない	24	40.0	21	38.2					2	50.0	
	わからない	9	15.0	7	12.7					2	50.0	
		79	100.0	55	100.0	12	100.0	7	100.0	4	100.0	
昨年の仕事量・日数の増減	例年より多かった	27	34.2	17	30.9	6	50.0	2	28.6	2	50.0	
	例年より少なかった	15	19.0	11	20.0	1	8.3	1	14.3	1	25.0	
	変わらなかった	37	46.8	27	49.1	5	41.7	4	57.1	1	25.0	
		51	100.0	38	100.0	7	100.0	4	100.0	2	100.0	
昨年の年間就労日数	200日未満	7	13.7	5	13.2	1	14.3			1	50.0	
	200～225日未満	10	19.6	10	26.3							
	225～250日未満	8	15.7	6	15.8	1	14.3	1	25.0			
	250～275日未満	13	25.5	12	31.6			1	25.0			
	275～300日未満	5	9.8	2	5.3	2	28.6	1	25.0			
	300日以上	8	15.7	3	7.9	3	42.9	1	25.0	1	50.0	
	平均値（単位：日）		242		234		271		269		240	
標準偏差（単位：日）		40		36		45		30		85		
		78	100.0	55	100.0	12	100.0	6	100.0	4	100.0	
一日の労働時間	8時間未満	2	2.6	1	1.8					1	25.0	
	8時間台	50	64.1	36	65.5	7	58.3	4	66.7	2	50.0	
	9時間台	18	23.1	13	23.6	4	33.3	1	16.7			
	10時間以上	8	10.3	5	9.1	1	8.3	1	16.7	1	25.0	
		78	100.0	55	100.0	12	100.0	6	100.0	4	100.0	
昨年の雇用保険の加入状況	通年で加入	10	12.8			9	75.0	1	16.7			
	季節（短期特例）で加入	59	75.6	54	98.2	2	16.7	1	16.7	2	50.0	
	加入しなかった	9	11.5	1	1.8	1	8.3	4	66.7	2	50.0	
		56	100.0	51	100.0	2	100.0	1	100.0	2	100.0	
今回の特例一時金の受給状況	受け取った	47	83.9	43	84.3	1	50.0	1	100.0	2	100.0	
	受け取っていない	9	16.1	8	15.7	1	50.0					
		77	100.0	56	100.0	12	100.0	5	100.0	3	100.0	
建退共制度への加入状況	加入している	54	70.1	40	71.4	10	83.3	2	40.0	2	66.7	
	加入していない	15	19.5	9	16.1	2	16.7	3	60.0	1	33.3	
	わからない	8	10.4	7	12.5							
		54	100.0	40	100.0	10	100.0	2	100.0	2	100.0	
建退共の手帳の保持（対象は「加入している」者に限定）	常に自分で持っている	2	3.7	1	2.5			1	50.0			
	夏場は会社に預け退職のときに返してもらう	12	22.2	10	25.0	1	10.0			1	50.0	
	常に会社に預けたまま持っている	37	68.5	28	70.0	8	80.0			1	50.0	
	持っていない	2	3.7	1	2.5	1	10.0					
	わからない											
その他（健保組合に預けたまま）	1	1.9						1	50.0			
			54	100.0	40	100.0	10	100.0	2	100.0	2	100.0
	証紙の貼付（同上）	公共の仕事でも民間の仕事でも貼られている	15	27.8	11	27.5	3	30.0	1	50.0		
公共の仕事だけ貼られている		11	20.4	7	17.5	2	20.0			2	100.0	
公共の仕事の一部だけ貼られている		2	3.7	2	5.0							
貼られていない		1	1.9					1	50.0			
わからない	25	46.3	20	50.0	5	50.0						

単位：人，%

		建設業全体		季節雇用		通年雇用		一人親方・事業主		パート・アルバイト	
		81	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
仕事をめぐる問題点 (複数回答可)	ア. 仕事の量や就労日数が少ない・減っている	17	21.0	12	21.4	3	25.0			1	25.0
	イ. 仕事に波がある	40	49.4	27	48.2	5	41.7	5	62.5	3	75.0
	ウ. 雇用期間が短くなっている	7	8.6	5	8.9					1	25.0
	エ. 賃金が安い	44	54.3	31	55.4	8	66.7	2	25.0	3	75.0
	オ. 体力的にきつい	18	22.2	14	25.0	3	25.0			1	25.0
	カ. 拘束・労働時間が長い	13	16.0	6	10.7	5	41.7	1	12.5	1	25.0
	キ. 休憩がとりにくい・とれない	10	12.3	9	16.1					1	25.0
	ク. 仕事上の怪我への補償がない	9	11.1	7	12.5	1	8.3	1	12.5		
	ケ. 職場の人間関係が悪い	13	16.0	10	17.9	2	16.7			1	25.0
	サ. その他	1	1.2	1	1.8						
		78	100.0	55	100.0	12	100.0	6	100.0	4	100.0
賃金の支給形態	日給制	75	96.2	53	96.4	11	91.7	6	100.0	4	100.0
	月給制	2	2.6	1	1.8	1	8.3				
	時給制	1	1.3	1	1.8						
		75	100.0	53	100.0	11	100.0	6	100.0	4	100.0
賃金日額	8000円未満	4	5.3	2	3.8	1	9.1			1	25.0
	8000～9000円未満	10	13.3	8	15.1	2	18.2				
	9000～10000円未満	9	12.0	4	7.5	2	18.2			2	50.0
	10000～11000円未満	18	24.0	15	28.3	2	18.2			1	25.0
	11000～12000円未満	8	10.7	7	13.2	1	9.1				
	12000～13000円未満	10	13.3	6	11.3	2	18.2	2	33.3		
	13000～14000円未満	11	14.7	7	13.2	1	9.1	3	50.0		
	14000～15000円未満	3	4.0	3	5.7						
	15000円以上	2	2.7	1	1.9			1	16.7		
	平均値 (単位：円)		10,747		10,848		9,918		13,000		8,750
標準偏差 (単位：円)		2,427		2,507		2,014		1,095		1,258	
		79	100.0	55	100.0	12	100.0	7	100.0	4	100.0
昨年の賃金額の増減 (一昨年比)	上がった	5	6.3	3	5.5	2	16.7				
	下がった	6	7.6	5	9.1			1	14.3		
	変わらない	68	86.1	47	85.5	10	83.3	6	85.7	4	100.0
		44	100.0	33	100.0	5	100.0	4	100.0	2	100.0
昨年の年間総収入 (ボーナスや手当等を含む)	100万円未満	1	2.3	1	3.0						
	100～199万円	9	20.5	8	24.2					1	50.0
	200～249万円	8	18.2	8	24.2						
	250～299万円	10	22.7	8	24.2	1	20.0			1	50.0
	300～349万円	9	20.5	6	18.2	2	40.0	1	25.0		
	350～399万円	5	11.4	1	3.0	2	40.0	2	50.0		
	400万円以上	2	4.5	1	3.0			1	25.0		
	平均値 (単位：万円)		264.7		246.7		320.8		372.5		206.5
	標準偏差 (単位：万円)		89.6		87.4		40.2		51.9		79.9
			80	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	3
釧路市発注の公共工 事で働いたか	働いていない	50	62.5	31	55.4	9	75.0	6	75.0	3	100.0
	働いた	30	37.5	25	44.6	3	25.0	2	25.0		



単位：人，%

		建設業全体		季節雇用		通年雇用		一人親方・事業主		パート・アルバイト	
		29	100.0	24	100.0	3	100.0	2	100.0		
釧路市発注工事での賃金日額	8000 円未満	1	3.4	1	4.2						
	8000～9000 円未満	2	6.9	2	8.3						
	9000～10000 円未満	3	10.3	3	12.5						
	10000～11000 円未満	10	34.5	8	33.3	2	66.7				
	11000～12000 円未満	6	20.7	5	20.8	1	33.3				
	12000～13000 円未満	1	3.4	1	4.2						
	13000～14000 円未満	4	13.8	2	8.3			2	100.0		
	14000～15000 円未満	1	3.4	1	4.2						
	15000 円以上	1	3.4	1	4.2						
		76	100.0	54	100.0	12	100.0	5	100.0	4	100.0
今後の就労希望	季節雇いを希望	16	21.1	15	27.8					1	25.0
	通年雇いを希望	49	64.5	33	61.1	9	75.0	5	100.0	1	25.0
	パート・アルバイトを希望	2	2.6			1	8.3			1	25.0
	仕事をもうやめたい	9	11.8	6	11.1	2	16.7			1	25.0
		81	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
仕事や賃金・労働条件に関する要望（3つまで可）	ア、賃金の引き上げ	64	79.0	46	82.1	9	75.0	5	62.5	3	75.0
	イ、労働時間の短縮	18	22.2	11	19.6	4	33.3	1	12.5	2	50.0
	ウ、雇用の安定化	47	58.0	33	58.9	6	50.0	4	50.0	3	75.0
	エ、退職金制度への加入	16	19.8	11	19.6	3	25.0	1	12.5	1	25.0
	オ、職場環境の整備	12	14.8	8	14.3	2	16.7	1	12.5	1	25.0
	カ、その他	3	3.7	3	5.4						
		81	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
住まいの種類	持ち家・分譲マンション	54	66.7	37	66.1	9	75.0	6	75.0	2	50.0
	親の持ち家	5	6.2	4	7.1	1	8.3				
	賃貸住宅・マンション・アパート	10	12.3	6	10.7	1	8.3	1	12.5	1	25.0
	公営住宅	11	13.6	8	14.3	1	8.3	1	12.5	1	25.0
	下宿・間借り	1	1.2	1	1.8						
		75	100.0	53	100.0	10	100.0	8	100.0	3	100.0
住まいの費用負担の有無	ない・支払い終えた	35	46.7	27	50.9	5	50.0	1	12.5	2	66.7
	まだ支払っている	40	53.3	26	49.1	5	50.0	7	87.5	1	33.3
		79	100.0	55	100.0	11	100.0	8	100.0	4	100.0
医療保険の加入状況	年間を通じて市町村の国民健康保険	30	38.0	22	40.0	3	27.3	2	25.0	2	50.0
	年間を通じて建設国保などの組合国保	18	22.8	8	14.5	3	27.3	6	75.0	1	25.0
	夏場は社会保険で冬は任意継続	12	15.2	11	20.0	1	9.1				
	夏場は社会保険で冬は国民健康保険	10	12.7	9	16.4					1	25.0
	夏場は社会保険で冬は家族の保険の扶養	3	3.8	1	1.8	2	18.2				
	夏場は社会保険で冬は無保険	2	2.5	2	3.6						
	年間を通じて家族の保険の扶養	2	2.5	1	1.8	1	9.1				
	わからない	1	1.3	1	1.8						
	その他（「年間を通じて社会保険」）	1	1.3			1	9.1				

単位：人，%

		建設業全体		季節雇用		通年雇用		一人親方・事業主		パート・アルバイト	
		79	100.0	55	100.0	12	100.0	7	100.0	4	100.0
公的年金の加入状況	すでに受給中	13	16.5	9	16.4	1	8.3			3	75.0
	まだかけている	50	63.3	34	61.8	9	75.0	5	71.4	1	25.0
	入っていない	16	20.3	12	21.8	2	16.7	2	28.6		
		50	100.0	33	100.0	9	100.0	6	100.0	1	100.0
公的年金の種類 (対象は「まだかけている」者に限定)	年間を通じて厚生年金	4	8.0			3	33.3			1	100.0
	夏場だけ厚生年金で冬場は国民年金	12	24.0	11	33.3	1	11.1				
	夏場だけ厚生年金で冬場は加入せず	7	14.0	6	18.2	1	11.1				
	年間を通じて国民年金	25	50.0	15	45.5	3	33.3	6	100.0		
	年間を通じて家族の保険の扶養	2	4.0	1	3.0	1	11.1				
		79	100.0	55	100.0	11	100.0	8	100.0	4	100.0
現在の暮らしの状況	大変苦しい	26	32.9	18	32.7	3	27.3	2	25.0	2	50.0
	やや苦しい	29	36.7	23	41.8	4	36.4	1	12.5	1	25.0
	普通	24	30.4	14	25.5	4	36.4	5	62.5	1	25.0
	ややゆとりがある ゆとりがある										
		80	100.0	55	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
現在の健康状態	非常に健康	3	3.8	2	3.6	1	8.3				
	まあ健康	48	60.0	30	54.5	9	75.0	5	62.5	3	75.0
	やや不調	22	27.5	17	30.9	1	8.3	3	37.5	1	25.0
	非常に不調	2	2.5	1	1.8	1	8.3				
	健康であるとも不調であるともいえない	5	6.3	5	9.1						
		81	100.0	56	100.0	12	100.0	8	100.0	4	100.0
自覚症状の有無 (よくあるもの。複数回答可)	セキやクンが1ヶ月以上続いている	1	1.2					1	12.5		
	息切れする	16	19.8	11	19.6	3	25.0	2	25.0		
	耳が聞こえにくい	25	30.9	16	28.6	5	41.7	4	50.0		
	耳なりがする	15	18.5	12	21.4	3	25.0				
	ユビ (ウラも表も) が白くなる	1	1.2	1	1.8						
	夏でもユビや手が冷たい	8	9.9	5	8.9	2	16.7			1	25.0
	ユビの感覚がにぶい	7	8.6	6	10.7	1	8.3				
	手や腕がしびれる	16	19.8	12	21.4	1	8.3	3	37.5		
	手や腕が痛い	20	24.7	16	28.6	1	8.3	2	25.0	1	25.0
	ヒジが痛い	15	18.5	13	23.2	1	8.3	1	12.5		
	ヒジが十分曲がらない	1	1.2	1	1.8						

## 資料3 「建交労調査」調査票

各設問において、該当する番号(丸数字)1つだけに○をつけてください。但し、複数回答可の設問については、あてはまる全てに○をつけてください。数字や文字を書き込む設問もあります。

◆I◆まずは、あなたのことについてお聞きます。

性別は	①男性 ②女性	年齢は	歳
世帯の人数は(1人暮らしの場合は1)	人	世帯員は(一緒に暮らしているすべての方に○を)	①配偶者 ②子ども ③親(義理の親含む) ④その他
あなたは現役で働いていますか	①まったく働いていない(Ⅲの設問へ移動) ②働いている → どのような就労形態ですか ①季節雇用 ②通年雇用 ③一人親方・事業主 ④パート・アルバイト		

◆II◆現役で働いている方にお聞きます。昨年のお仕事・収入の状況についてお聞きます。

業種は	①建設業 ②製造業 ③運輸業 ④林業 ⑤その他			
職種は				
現在の職種での経験年数は	年			
勤め先の従業員規模は	①1~4人 ②5~15人 ③16~29人 ④30人以上			
受注している仕事の種類は	①公共工事が中心 ②民間工事が中心 ③公共と民間が同じくらい			
あなたの勤め先は	①元請け ②1次下請け ③2次下請け ④3次以下の下請け			
昨年、雇入れ通知書は	①もらった ②もらっていない ③わからない			
昨年の仕事量・日数は	①例年より多かった ②例年より少なかった ③変わらなかった			
昨年の年間就労日数は	日	1日の労働時間は	時間	
昨年の雇用保険は	①通年で加入 ②季節(短期特例)で加入 ③加入しなかった			
今回(昨年)、特例一時金は(上で②を選択した方)	①受け取った ②受け取っていない			
建退共制度には	①加入している ②加入していない ③わからない			
建退共の手帳は	①常に自分で持っている ②夏場は会社に預け離職のときに返してもらい ③常に会社に預けたまま ④持っていない ⑤わからない			
証紙は	①公共の仕事でも民間の仕事でも貼られている ②公共の仕事だけ貼られている ③公共の仕事の一部だけ貼られている ④貼られていない ⑤わからない			
仕事上であてはまる問題点のすべてに○を	①仕事量や就労日数が少ない・減っている ②仕事に波がある ③雇用期間が短くなっている ④賃金が安い ⑤体力的にきつい ⑥拘束・労働時間が長い ⑦休憩がとりにくい・とれない ⑧仕事上の怪我への補償がない ⑨職場の人間関係が悪い ⑩その他			
昨年の賃金額は	日給制の場合(1日あたり		円)	
	月給制の場合(月額		円)	
昨年の賃金額(日額,月額)は、一昨年よりも	①上がった ②下がった ③変わらない			
昨年の年間総収入(ボーナスや手当等を含む)は	万円			

昨年、釧路市の発注する公共工事現場で働いたか	①働いていない ②働いた ⇒ そのときの賃金額は (1日あたり 円) (月額 円)
今後の仕事の希望は	(a)雇用形態は ①季節雇用を希望 ②通年雇用を希望 ③パート・アルバイトを希望 ④仕事をもうやめたい→ (理由は ) (b)仕事内容は ①現在の仕事を希望 ②業種・職種の転換を希望 (具体的には )
仕事や賃金・労働条件に関する要望は (最大3つまで)	①賃金の引き上げ ②労働時間の短縮 ③雇用の安定化 ④退職金制度への加入 ⑤職場環境の整備 ⑥その他 (具体的に )

◆III◆生活のことについてお聞きします。

お住まいは	①持ち家・分譲マンション ②親の持ち家 ③賃貸住宅・マンション・アパート ④公営住宅 ⑤下宿・間借り ⑥その他 ( )
住まいの費用負担 (住宅ローンや家賃等)は	①ない・支払い終えた ②まだ支払っている ⇒ (毎月 円)
健康保険 (医療保険)は	①年間を通じて市町村の国民健康保険 ②年間を通じて建設国保などの組合国保 ③夏場は社会保険で冬は任意継続 ④夏場は社会保険で冬は国民健康保険 ⑤夏場は社会保険で冬は家族の保険の扶養 ⑥夏場は社会保険で冬は無保険 ⑦年間を通じて家族の保険の扶養 ⑧年間を通じて無保険 ⑨わからない ⑩その他 ( )
年金 (公的年金)は	①すでに受給中 ②まだかけている ③入っていない
年金の種類は (上で②を選択した方)	①年間を通じて厚生年金 ②夏場だけ厚生年金で冬場は国民年金 ③夏場だけ厚生年金で冬場は加入せず ④年間を通じて国民年金 ⑤年間を通じて家族の保険の扶養 ⑥その他 ( )
現在の暮らしは	①大変苦しい ②やや苦しい ③普通 ④ややゆとりがある ⑤大変ゆとりがある
あなたの現在の健康状態は	①非常に健康 ②まあ健康 ③やや不調 ④非常に不調 ⑤健康であるとも不調であるともいえない
次のような自覚症状はありますか (よくあるという症状の全てに○を)	①セキやタンが一ヶ月以上続いている ②息切れする ③耳が聞こえにくい ④耳なりがする ⑤ユビ (ウラも表も) が白くなる ⑥夏でもユビや手が冷たい ⑦ユビの感覚がにぶい ⑧手や腕がしびれる ⑨手や腕が痛い ⑩ヒジが痛い ⑪ヒジが十分曲がらない

ご協力ありがとうございました。仕事・生活・健康に関して何かご相談などがある方や、組合からの資料などをご希望の方は、お名前やご連絡先をお書きください。

お名前	電話番号 e-mail
-----	----------------

裏面には、仕事や労働条件、生活に関する不安・不満や要求などご自由にお書きください